

# 大崎市



大迫の「もんきつき」は、大崎耕土を支えてきた遊水地の一つ品井沼と呼ばれる約 18k㎡の大きな沼が所在した大崎市南端の鹿島台地域に伝承されてきたものです。「もんきつき」とは、築堤等に用いる人力の杭打ち工法のことです。その技術は戦国時代の築城技術にさかのぼると言われています。



鹿島台地域は、沼地が多く軟弱な地盤が広がっていたことから、干拓区域と河川等を堤防で分離する必要があり、大型の機械が入るまで、この「もんきつき」工法が重要な役割を果たしました。

地元では、現在の郷土の姿を築き上げる原動力となったこの「もんきつき」を後世に伝えていくため、昭和51年に保存会を立ち上げました。二本構え櫓を立て、杭打ちの動作と根取り歌(作業歌)を組み合わせるものです。

現在、地元の小学校の学習発表会や区文化祭等で披露されています。